

# 2014



## 本の力を、生きる力に。



公益社団法人

シャンティ国際ボランティア会



# お願いです。 ここに書いてある字を 読んでください。 私の息子を、 どうか助けてください。

わたしは、字が読めません。

そのせいで、医者からもらった薬の飲ませ方がわかりません。

目の前で息子が苦しんでいるというのに、字が読めないために、

私はわが子を助けることができないのです。

これは、病に苦しむわが子を前に、困り果て、

嘆き悲しむ母親の言葉です。

文字さえ読めたなら、わが子をこんな目にあわせずにすんだのに。

母親は、そう思ったにちがいありません。

文字を読むことは、生きること。

文字を読む力は、生きる力。

栄養や水と同じように、人がすこやかに生きていくためには、文字に触れ、文字を知ることが、必要不可欠なのです。

カンボジアの首都から100キロほど離れた、コンボンチュナン州コンボンレーン郡にあるスヴァイルンピア小学校でのことです。校庭の片隅に十代半ばの男の子が倒れていました。傍らには母親らしき女性が寄り添い、途方に暮れた様子で男の子のおなかを撫でています。近づいて声をかけると、女性は目を潤ませながら事情を話してくれました。

腹痛を訴えた息子を背負い、30キロの道のりを歩いてようやく病院にたどり着いた。医師に診てもらい、薬をもらって帰途についたが、息子がふたたび激しい痛みに襲われた。薬を飲ませてやりたいが、医師から与えられた薬の処方箋を自分は読むことができない。

女性はそう言うとポケットから一枚の紙を取り出し、必死の形相でこう訴えたのです。お願いです、ここにある文字を読んで。どうか息子を助けて下さい、と。

内戦終結後、カンボジアは著しい経済発展を遂げ、首都プノンペン人口100万人を越える大都市に成長しました。しかし、そんな繁栄とは裏腹に、農村部では日常生活に困らない程度の読み書きさえできない人びとが、まだまだ大勢います。

病院に行こうと都市に出たが、字が読めないせいで看板が読めず、どれが病院かわからなかった。秤の数字が読めないせいで、仲買人に農産物をだましとられた。出稼ぎに出ても、読み書きできないために面接で落とされ、過酷な肉体労働に就かざるをえなかった。このように、読み書きができないということは、生活上の困難を強いられるばかりでなく、必要な情報にアクセスできず労働や雇用に不利益がもたらされるなど、貧困に拍車をかける事態を招きます。

また、読み書きができないと、安定した職に就けない、安定した収入が得られない、最低限の教育が受けられない、といった世代間のマイナス連鎖を生み出します。こうした貧困の悪循環を断ち切るには、最低限の読み書きを身につけることのできる識字教育が不可欠なのです。







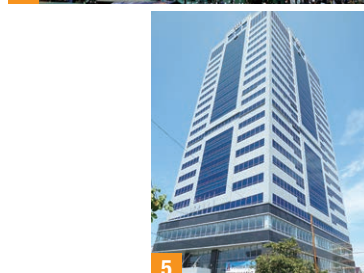
[ CAMBODIA ]

## ポル・ポト時代の教育破壊と経済成長による格差の増大

今でこそ小学校の就学率が9割をこえるカンボジアですが、1970年代には、史上最悪とも言えるべき教育破壊の時代がありました。ポル・ポト政権による教育制度の廃止です。徹底した共産主義政策のもと、ポル・ポトは学校校舎を破壊、教員の多くは処刑もしくは強制労働に従事させられ、焚書政策によってあらゆる書物が失われました。

内戦終結後、教育制度は回復したものの、校舎、教員ともに不十分な状態が続き、正規の研修を受けていない村人が即席で教職に就いたため、小学校教員の半数以上が高校を卒業していないという有り様でした。

また、現在就学率は9割を越えるものの、小学校の卒業率は5割に満たない状況です。憲法によって9年間の義務教育が規定されていますが、中学・高校への進学率は極めて低く、とりわけ地方農村部では退学、留年する子どもが後を絶ちません。おもな理由は、家庭が貧しくて働かなければならないから、勉強に必要な文具や制服を買えないから、学校までの距離が遠いから。このように、都市部と農村部の間には歴然とした教育格差が存在しています。観光産業や縫製業を中心に、順調な経済成長を遂げているかに見えるカンボジアですが、こうした発展の影には、深刻な格差、貧困問題が根強く残されているのです。



- 1 地方農村部の小学校、校舎は木造で1教室のみ
- 2 1980年代カンボジア難民キャンプ
- 3 1992年当時のプノンペン市街
- 4・5 大型スーパーや高層ビルの建築が進むプノンペン市

[ CAMBODIA ]

## 子どもだけではない 若者・成人の 低い識字率

十分な教育が受けられず、読み書きができないと、生活や就職に支障を来すだけでなく、保健衛生面での問題も引き起こします。たとえば文字が読めなければ、食や医療についての情報が得られず、先祖代々言い伝えられてきた知識・知恵に頼らざるをえないという状況が起こります。正確な知識にアクセスできなかったがために、栄養失調や感染症に陥って命を落とす。そうした事態も決してめずらしくないのです。

妊娠や出産、家事や子育てを担う女性の問題も見逃せません。農村部では家族計画に対する理解が乏しく、早婚や望まない妊娠がまだまだ多く見られます。離婚するケースも少なくなく、都市部以上に多くのシングルマザーがいます。教育や識字の不備は、女性が社会に出る貴重な機会を著しく妨げているのです。



このように、教育や識字の問題は、子どもだけでなく若者や成人にも深刻な影響を及ぼしますが、同様の問題は農村部に限らず、都市のスラムなどでも見受けられます。現在プノンペンには推定400から700ものスラムがあり、地方からの流入者は年間約2万人に上るといわれます。貧困や劣悪な生活環境に加え、近年では都市開発に伴う強制立ち退きなども相まって、スラムでは教育はおろか、衣食住さえままならない状況がいまだに続いているのです。



- 1 農村の学校で新しく配布された図書180冊の整理に励む教員
- 2 壁が無く雨が降ると授業を中断せざるを得ない状態の教室



[ CAMBODIA | LAOS | AFGHANISTAN | MYANMER ]

## 内戦によってもたらされる貧困 教育の遅れ

カンボジアが抱えるこうした問題は、ラオス、アフガニスタン、ミャンマーなど、シヤンティが支援する他の途上国地域においても同じです。

少数民族による反政府勢力と軍事政権との対立が20年以上も続いたミャンマーでは、紛争で親をなくした孤児、貧困が原因で学校に通えない児童など、小学校を修了していない子どもの数が半数以上にも及びます。一方タイ国境付近には、紛争を逃れて難民キャンプで暮らす人びとが11万人以上います。難民キャンプでは校舎や教科書などが慢性的に不足し、基礎教育は受けられるものの、卒業後キャンプの外に出て高等教育を受けることができません。急速な民主化によって経済成長の兆しを見せ始めているとはいえ、十分な教育が受けられる環境はまだ未整備の状態にあるのです。

また中東アフガニスタンでは、1970年代のソ連侵攻以後、「米ソ代理戦争」と呼ばれる内戦、米国同時多発テロに端を発するアフガン空爆、反政府武装勢力と多国籍軍との戦闘など、治安の悪い不安定な国情に人々は今なおさらされ続けています。

小学生の就学率が55%、使用に耐える校舎を有する学校が50%にとどまり、多くの子どもがテントや野外での学習を強いられる不十分な教育環境に追い討ちをかけるかのように、2013年には反武装勢力によって481の学校が閉鎖、焼き討ちされるという事態も起こりました。こうした現状を打破するには、緊急かつ長期的な教育支援が強く求められます。



- 1 ミャンマーの寺院学校、増加する児童に設備が追いつかない状況だった
- 2 戦車の残骸が残るアフガニスタン
- 3 アフガニスタンの子ども
- 4 アフガニスタンでは人口増加に校舎の建設が追いつかない





# シャンティが展開する

## 3つのプロジェクト



### 人を育てる



子どもたちが本に接し、読書する機会を増やすには、子どもたちに愛され親しまれる図書館作りが必要です。そのためには、施設や備品以上に、図書館に携わる「人」の育成が欠かせません。そこで、図書館員、保育士、教員、校長、行政官などを対象に、絵本の歴史や種類、児童心理、本の選書や管理に必要な知識を習得する研修プログラムを実施します。来館者が絶えない、活発な図書館運営を維持するには、図書館員のやる気や技能だけでなく、周囲のサポートも求められます。現場を支援、指導する学校・行政関係者の養成もたいへん重要なのです。

また、研修では読み聞かせや紙芝居の実演などの実技演習も行います。図書館員や教員のなかには、読み聞かせに戸惑いや抵抗を示す人も少なくありませんが、子どもたちへの実際の読み聞かせを通じて、その必要性や楽しさを理解するようになります。

このほか、絵本を創作する作家、画家、編集者へのトレーニングも実施しています。支援国の多くは出版の普及率がいまだに低く、絵本にいたってはさらに少ない状況にあります。出版以前にまず絵本の作り手を発掘、育成していかなければなりません。

そのための取り組みのひとつとして、難民キャンプで絵本コンクールを開催しています。キャンプのなかには絵が得意な人、創作に意欲的な人も少なくありません。応募作品を審査することは絵本をより深く知るきっかけにもなり、作品を見る目を養う学びの場にもなっています。



### 安心できる場所をつくる



紛争や貧困は、子どもたちから笑顔を奪います。やせ細った体に険しい顔つき、大人びた鋭い眼差し。紛争地域では、凶暴性ににじませる子どもも少なくありません。しかし、そんな子どもたちも、ひとたび図書館に来て絵本を開き、読み聞かせに親しむようになると、子どもらしい無邪気な表情、こぼれるような笑顔を見せます。戦争や暴力によって心が傷ついた子どもにとって、本が読める図書館は安らぎの場、本来の子どもらしさを取り戻せる救済の空間なのです。また、展示会などを積極的に行い、図書館を住民に開放することで、教育の必要性や効果をより具体的に伝えることにも取り組んできました。図書館は、教育への理解や意識向上をはかる場としても期待できるのです。

一方、図書館は蔵書や読書、読み聞かせなど本来の役割だけでなく、コミュニティセンターや公民館のような、大人どうしをつなぐ公共空間としての機能も果たします。図書館建設をきっかけにスラムの住民が協力し合い、自らの手で保育園を建設するに至ったケースでは、継続的な運営が図れるよう支援、アドバイスも行いました。

図書館事業以外にも、子どもたちが安心して生活し、勉強できる環境をつくるために、学校や孤児院も建設しました。カンボジアやラオスで建設、運営支援を行った「アジア子どもの家」プロジェクトは、その後地域に引き継がれたり、行政が運営する子どもセンターのモデルとなりました。

長引く紛争や貧困、度重なる災害は、人びとから生きる気力や尊厳を奪い去り、悲しみや憎悪の感情をもたらします。こうした状況が、今世界中を脅かしているテロリズムを温床するといっても過言ではありません。私たちにできることは、苦しむ人のそばに立ち、苦しみを分かち合い、人びととともに解決への糸口を探ること。読書や図書館事業の推進によって、子どもたちの「未来を創造する力」を育む支援活動を続けていくこと。私たちは、本の力が「生きる力」になることを信じて、未来への希望を届けます。



### 本を読む機会を提供する



食べることで子どもの体が成長するように、本を読むことは子ども心の成長を促します。本を読んだり、読み聞かせによる「おはなし」をたくさん聞いたりすることは、楽しい、役立つ、ためになるなどの有用性をこえて、物事に取り組む力や自信、困難に立ち向かう勇気や希望を育ててくれるのです。

本を読むことで、子どもたちは字を知る貴重な機会を得ることができます。字を知ること、生きるのに欠かせない情報を得るだけでなく、国内外の歴史や文化を知るなど、教養を身につけるのにも役立ちます。

シャンティでは、こうした「本の力」を「生きる力」ととらえ、子どもが読むための本が不足している国で、絵本や紙芝居を出版したり、本を購入したりしています。また、対象国の状況や教育支援のニーズに応じて、学校の空き教室を利用した図書室作り、本棚になる図書箱の活用、コミュニティ図書館の建設、ミニバンに本棚を取り付けた移動図書館車など、子どもが本と出会うためのさまざまな場を設けています。





## みなさまへ

シャンティの活動に日頃から陰に陽にご支援をいただいている皆さまに心より感謝申し上げ、ここに年次報告をお届けいたします。

本年は、シーカー・アジア財団(SAF)が自立計画に沿って、独自の運営を始める年でもあります。30有余年の間、支えてくださった皆さまのお力添えがあったからこそ、と心より感謝申し上げると共に、今後とも見守ってくださいますようお願い申し上げます。現地職員にとっては大きな試練でもあり、飛躍の年となることでしょう。

2014年度は、ミャンマー国内に現地事務所を設けることができました。政治は民主化されたとはいっても、子どもたちの置かれている状況は非常に厳しいものがあります。一昨年ミャンマーを訪れたとき、「夜間小学校」を視察しました。うす暗い照明のなかで、子どもたちが細かい字で几帳面にノートをとっている姿は、学ぶことで将来に希望を見出したいという気持ちが直に伝わってくると同時に、いろんな困難を乗り越えていってほしいと願わずにはいられませんでした。

シャンティが目指すのは、一人ひとりが尊厳をもって生きられる、平和な社会の実現です。それは終わりのない旅のようですが、ご支援をくださる皆さまが居る限り、一緒にあゆんで行きたいと念じています。

どうぞ今後ともお力添えを賜りますよう心よりお願い申し上げます。

2014年度、シャンティはいくつかの大きな転換点を迎えました。次の5カ年にかけて、“より困難で弱い立場におかれる人々が、自ら考え、問題を解決する力を培っていけるよう、2018年度までに670万人の人々へ読書推進／図書館活動を届けていく”ことを目標として掲げた初年度となりました。

各国に目を向ければ、最初の活動国であるタイの現地法人、シーカー・アジア財団が、自らの力で社会課題を解決していくNGOとして自立化を果たし、これからは同じ理念を共有し、共に学びあうパートナー団体として新たな一步を踏み出すに至りました。また、アフガニスタン以来10年ぶりとなる新たな活動国、ミャンマーにおいて事務所を開設、これまでの経験を活かした事業を本格的に開始することが出来ました。日本では1,500人もの方々が、シャンティの新たな仲間として加わっていただくことができました。

33年目にして得られた成果、そして新たな挑戦は、これまで様々な形、機会をとおして応援続けていただいたご支援者の存在なくして成すことはできなかったものです。皆さまお一人おひとりの想いと行動に支えられ、あたたかな言葉に励まされながら、今日まで歩み続けられたことに、職員一同、改めて心からお礼申し上げます。

“平和(シャンティ)な社会の実現”を目指して、これからも共に歩んでいただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。



会長  
若林 恭英



事務局長  
関 尚士

# 本を開くことは 未来を拓くこと。

世界には、生まれた環境が違うと言うだけで、本を知らない子どもがたくさんいます。シャンティはアジアの困難で弱い立場にいる子どもたちが、未来に希望を持って生きていけるよう図書館活動の取り組みをおこなっています。本を手にすることは、すべての人間に平等に与えられた権利です。一緒に応援してください。まだ本を知らない子どもたちのために。

*move forward. hand in hand.*



## 事業報告目次

- ⑩ タイ(シーカー・アジア財団(SAF))
- ⑪ カンボジア
- ⑫ ラオス
- ⑬ ミャンマー(ビルマ) 難民キャンプ
- ⑭ アフガニスタン
- ⑮ ミャンマー
- ⑯ 緊急救援
- ⑰ 日本
- ⑳ 会計報告





1 ターク県奨学金授与式(©瀬戸正夫)

タイは「中進国」といわれますが、社会における貧富の格差、地域間格差は依然としてあり、バンコクと地方の地域間格差による教育の質の格差が生じています。無償教育制度が導入されていますが、実際の学校現場では施設や設備の維持に対する予算が不足しており、保護者から追加徴収があるのが状況です。バンコクでは学校のコンピューターの維持や語学の特別授業のために、生徒が費用を負担したり、交通費がかかるため、スラム地区で暮らす貧困世帯の家族にとっては、そうした費用の負担が困難です。またターク県やバヤオ県の少数民族の世帯では農業を営む世帯も多く、子どもたちの通学に必要な

な費用を限られた現金収入から捻出しています。両親とも、または片親が死別等により不在という子どもたちが置かれている状況はいつそう困難です。



2 職員によるターク県での家庭訪問の様子

## 2014年の報告

クロントイを含むバンコクでは近隣諸国、とりわけカンボジアからの移民労働者が増えており、クロントイ・コミュニティ図書館においてもカンボジアの子どもの来館数が増えています。改修工事を終えたクロントイ・コミュニティ図書館は、11月29日に開館。新しくなった図書館、「未来ブラリー」には、クメール語、ビルマ語、ラオス語、英語といった外国語本コーナーをおき、インターネット情報検索コーナーを設置しました。このコミュニティ図書館を拠点に、ミャンマー移民労働者が多く暮らす国境のターク県メーソット、サムットサーコーン県マハーチャイ地区、そして、バンコク・スラム地区で移動図書館活動を実施しました。ミャンマー移民が多く暮ら

す地区には、ビルマ語に翻訳した本30冊と図書箱、図書ケースのセットを対象23校へ寄贈。今後はミニライブラリーとして活用されます。奨学金事業では、バンコク、バヤオ県、ターク県、ルイ県の中高大学生377人に対し奨学金を授与したほか、奨学金事業の3つの対象地域から、奨学生代表88人が、会場となったシャンティ学生寮(バヤオ県ボン郡)に集まり、2泊3日の奨学生キャンプを実施しました。テーマは、「ボランティア精神をもつ模範的な青年リーダー育成」で、参加した学生は地域住民が保護する自然公園での植樹活動、学生寮の修繕活動やそれぞれの民族衣装を着用し伝統舞踊の披露を行う文化交流会を通して、同じ時間を過ごし、互いの親交を深めました。



3



4



5

3 改修された「未来ブラリー」外観  
4 移動図書館活動(©瀬戸正夫)  
5 バヤオ県授与式(©瀬戸正夫)

| 公用語    | タイ語                           |
|--------|-------------------------------|
| 首都     | バンコク                          |
| 面積     | 514,000km <sup>2</sup>        |
| 人口     | 6,700万人<br>(2013年、世界銀行)       |
| GDP    | 一人当たり5,780USD<br>(2013年、世界銀行) |
| 通貨     | バーツ(B)                        |
| 日本との時差 | −2時間                          |

1月に政権打倒を掲げた「シャットダウン・バンコク(バンコク封鎖)」という10万人規模のデモ活動が始まりました。解決策を見出すことができず、5月22日にクーデターへと発展。国家平和秩序維持評議会(NCPO、議長:プラユット陸軍司令官)が政権を掌握しました。8月24日にプラユット氏が暫定首相に任命されて以降、暫定政権が続いています。治安は落ち着きを取り戻し、観光客は戻りつつありますが、戒厳令下により言論や報道の自由に対する規制が続いています。同政権は民政移管を進めておりますが、2015年に予定されていた総選挙は2016年になる見通しです。



1 コミュニティ図書館にて。文字を読めない村の人に本を読んであげる子ども

カンボジアでは、小学校の就学率が97%を達成したものの、小学生の残存率は61%で、これはデータがある東南アジア諸国の中で最も悪い状況です。発育阻害の子どもの割合は約33%に上ります。また地方の農村部では、成人識字率が半分に満たないのが現状です。このような現状の課題に対応するため、教育環境の厳しい地域で読書

活動の推進と、地方行政との協力関係を深めるよう、シェムリアップ州とバタンバン州に地方事務所を開設しました。そしてカンボジア教育省の人材育成を重視する政策に沿う形で6事業をおこない、計151,393人に読書環境や教育環境を提供しました。また新規事業として公立幼稚園における幼児教育の質の改善事業を計画しました。

## 2014年の報告

### ①ドリーム小学校事業

バンテイミンチエイ州とバタンバン州において、小学校8棟、図書館6棟の建設と学校・図書館運営の研修を行いました。2012年対象校を追跡調査して、5校中3校で進級率・退学率ともに改善が見られました。

### ②住民参加による学校図書館運営事業

バンテイミンチエイ州とバタンバン州の8校で、教育省の「小学校図書館スタンダード」に基づいた図書館運営に関する研修会を開き、図書館の装飾や備品や図書の提供、読書推進活動をおこないました。研修には8校で計58人が参加、図書館活動推進のイベントには5校で計1,933人が参加しました。教育省と連携して「読書推進ガイドライン」を作るワーキンググループに参加しています。

### ③絵本・紙芝居出版事業

絵本2タイトル、紙芝居1タイトルを出版し、2015年3月までに配布しました。利用状況調査では、多くの子どもたちが出版した絵本を好きだと答えています。

### ④図書館活動を中心としたコミュニティラーニングセンター(CLC)事業

コンボントム州に第1館目、シェムリアップ州に第2館目となるセンターが完成しました。子どもから大人まで多くの住民に利用されています。一日の平均利用者数は両館ともに100人を超え、生活向上に欠かせない農業や保健などを多く含む400タイトル以上の本が読まれています。住民の生活向上に役立つ研修内容を作り、実施を助けました。

### ⑤伝統文化支援

#### ～仏教学校における図書館推進事業

プノンベン州の仏教研究所に仏教図書館ワーキンググループ(BLWG)、仏教教育局に仏教教育ワーキンググループ(BEWG)を設立しました。

対象寺院の仏教学校に仏教図書館を設置し、BLWGと対象寺院図書館員向けに、図書館運営研修会を実施しました。また、BEWGを対象に計画・予算作成研修会を実施し、仏教学校の質を向上させるための人材育成を行いました。

### ⑥スラムのコミュニティ図書館推進事業

アピワットミンチエイ・スラムにコミュニティ図書館1棟を建設しました。対象となる5か所のスラムで移動図書館活動を計画通りにおこないました。今後のスラムでの移動図書館活動を担う人材であるボランティアを募集・育成していきます。



2



3

2 研修を受けた学校図書館員 3 休み時間に学校図書館にて



| 公用語    | クメール語                         |
|--------|-------------------------------|
| 首都     | プノンベン                         |
| 面積     | 1,810,000km <sup>2</sup>      |
| 人口     | 1,514万人<br>(2013年、世界銀行)       |
| GDP    | 一人当たり1,006USD<br>(2013年、世界銀行) |
| 通貨     | リエル(KHR)                      |
| 日本との時差 | −2時間                          |

教育省は2014年から2018年までの教育戦力計画を発表しました。人材育成が国の経済発展に欠かせない要素と位置づけ、教育への公正なアクセス、教育の質並びに教育者のリーダーシップと管理能力の向上の3つの政策を打ち上げました。その中で、幼児教育、初等教育、ノンフォーマル教育など7つのセクターの強化をうたっています。経済発展の影に置き去りにされる弱者が課題となっています。





1 住民参加型による学校建設事業における調印式

ラオス北部の文化と経済の中心地となっているルアンパバーン県内のヴィエンカム郡で事業をおこないました。ヴィエンカム郡はルアンパバーンの中心地から遠く離れており、郡全体が急峻な地形でありインフラの整備が進んでいません。また公用語のラオス語を使用しない少数民族が郡人口の85%以上にも及び、貧困率も非常に高い地域です。ヴィエンカム郡は、このような状況にありながら、「万人のための教育(EFA)」などの開発援助事業の対象地から外れていました。

2014年度はさまざまな初等教育の課題に対して、計画通りの事業をおこない、ヴィエンカム郡の教育の質とアクセスの両側面の改善に向け大きな貢献をすることができました。

運営面においては、運営現地化計画に基づいた事業形成手法の研修会と人権に基づく開発アプローチの研修

会に現地職員が参加、事業運営の質を上げるよう、能力強化を継続しています。



2 事業地はいくつもの山を越えた先

## 2014年の報告

### ①教育のアクセスの改善(施設改善事業)

ルアンパバーン県ヴィエンカム郡で小学校3校の建設事業を行いました。この建設事業を参加型にするために、ラオス事務所が、特に大切にしている工程が2つあります。一つ目は、住民が自ら小学校の校舎に使用する木材を調達することです。現在のラオスでは森林保護により伐採規制が厳しくなっているため、住民が木材の調達をするためには多くの手続きと時間を費やさなければなりません。この作業を通じて事業に参加することにより、事業に対する住民の主体的な意識が高まります。二つ目は、小学校の教員が「学校の配置図」を作成することです。建設中に作成するこの配置図には、校舎完成後に教員と住民によって作られる校門や花壇が描かれます。これを教室の見やすい所に掲示することにより、教員と住民が目指す内容が明確になり、教育を継続的に改善していこうとする動機づけになります。9月に開始した建設事業は、2015年5月末には竣工する計画です。

### ②教育の質の改善(指導能力改善事業)

教室と教員の数が原因の複式学級がヴィエンカム郡には非常に多く見られます。ですが、教員が複式学級において、複数の学年の授業を同時に行うための知識と技術を習得していないため、学校に来てても何も学べずに終わってしまう子どもたちもたくさんいます。この状況を改善する

ために、ヴィエンカム郡内の全ての就学前学級と小学校の教員を対象にした研修を行っています。また、同郡の読書推進活動として18校を対象にした移動図書館活動と、4タイトルの絵本出版を行いました。



3



4

3 複式学級の課題を改善するため、学年ごとに黒板をおいた  
4 読み聞かせに笑顔が広がる



1 絵本を読む子どもたち

2012年、ミャンマー政府とカレン民主同盟(KNU)の間で停戦合意が結ばれて、難民の自主的本国帰還の準備に関する議論が進んでいます。これを受け、タイ政府及びUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)は、2015年から2017年の間に大規模な帰還が開始されると見ており、いよいよ帰還に向けた動きが現実味を帯び始めています。2014年は「読書推進活動がカレン難民委員会教育部会

(KRCEE)や難民キャンプ内の教育部会(OCEE)との協働により教育プログラムにおいて拡充される」ことを事業目的とし、従来のコミュニティ図書館活動に加えて、学校教育機関に対する読書推進活動を実施しました。また、将来的な帰還の準備として、難民キャンプ内の教育機関との連携や、情報提供活動、図書館関係者の人材育成の強化を行いました。

## 2014年の報告

### コミュニティ図書館活動

#### ①帰還に向けた情報の提供

図書館21館に、ミャンマー関連図書、オフラインパソコンでのデジタル情報検索サービスを提供しました。コミュニティ情報掲示板の毎月の更新、さらに一部図書館の修繕を行い、利用しやすい図書館を作りました。

#### ②学校教育との連携

幼児から高等教育終了後までの子ども・青年世代の難民に、年齢にあった図書館サービスを提供しました。絵本や参考書などの図書、学校に対する移動図書館の貸出、読書推進公演と行事の開催、カレン語教科書・教員用ガイドの印刷と配布。基礎的な識字学習に加え、図書を利用した学習もサポートできるようになりました。この結果、移



2



4

2 コミュニティ図書館で本を読む子どもたち

動図書館を利用する学校が前年よりも20%以上増加しました。

#### ③移行期を意識した活動運営

5種類の読書推進研修で、教育・図書館関係者や学校教員が読書推進活動の意義を学び、必要になる知識、技能を習得しました。日々の図書館運営や活動の実践、移動図書館活動、さらに青年ボランティアによる読書推進イベント等に活用されています。

#### ④コミュニティ図書館の機能維持

年間のべ454,946人が利用する7カ所の難民キャンプ21館のコミュニティ図書館を運営しています。また、カレン語、ビルマ語の絵本を3タイトル(6,000冊)出版し、コミュニティ図書館に配架、連日子どもたち、先生などが出版された絵本を楽しみました。



3



5

4 合同研修会 5 移動図書館から学習参考書を借りる学生

# ミャンマー(ビルマ)難民キャンプ



| 主にカレン族が居住するキャンプ |               |  |  |
|-----------------|---------------|--|--|
| メラウ 10,539人     | ヌボ 11,399人    |  |  |
| メラマルアン 12,099人  | パンドンヤン 2,972人 |  |  |
| メラ 40,385人      | タムビン 6,346人   |  |  |
| ウンピナム 12,099人   |               |  |  |

合計 95,839人(総難民数 110,094人)  
(2014年12月、TBC:The Border Consortium)

タイで2014年5月にクーデターにより軍事政権が発足、移民や難民に対する政策強化が打ち出され、7月には各難民キャンプでタイ軍により所在確認がおこなわれました。難民の移動制限の強化、外部者の入場も厳しく制限されるようになりました。タイ政府からミャンマー政府との難民帰還の合意に関する発表があり、さらに両政府、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)との間で難民帰還に向けた実務的な議論が進んだ1年となりました。



## アフガニスタン



1

1 建設した校舎と図書室での絵本の読み聞かせ

学校は16,000校に増えましたが、いまだ半数には校舎がありません。純就学率も56%（女子は44%）と低いまで、子どもたち350万人が小学校に通えない状態が続いています。子どもが読書の機会を得ることで教育の質を改善できるよう、「郡部における学校図書室事業」「児童の読書推進事業」をおこない、70,049人の子どもたちが本を読

めるようになりました。また、カブール州で1校の校舎建設を実施しました。治安の悪化により2007年以降、日本人所長は現地に駐在せず東京からの管理をおこない、国外で現地職員と業務調整会議を開いています。

## 2014年の報告

## ①初等教育環境改善事業

カブール州において、20教室と8室（図書室、教員室など）からなる校舎とトイレを1校で建設しました。2015年3月下旬の新学期から、これまでテントや借上民家で学習していた児童1,775人が、快適な教室で学んでいます。

## ②郡部における学校図書室事業

校舎建設した学校1校に図書室を設置し、第1回図書活動研修を2校71人の教員が、第1回図書館員研修を2校8人の図書室担当教員が受講しました。第2回図書活動研修を18校540人の教員が、第2回図書館員研修を18校と図書館6館合計72人の図書室担当教員と図書館員が受講しました。

図書出版ガイドラインや日本の専門家からのコメントに沿ってダミーの作成・改善をおこなった絵本5タイトル、紙芝居1タイトルを出版しました。NGO等から図書購入の要望が多いため、販売用図書発行方針を定め、新規出版の絵本5タイトルを各500部ずつ販売用に追加印刷しました。



2

## ③児童の読書推進事業

ナンガルハル州で「子ども図書館」を運営し、図書・文化活動をおこないました。述べ31,128人の子どもたちが来館し、利用者数、貸出数ともに前年より増加しました。ナンガルハル州の公共図書館5館で利用状況を調査しました。



3



4

2 校舎建設前・校舎不足のため、テントで学ぶ子どもたち  
3 完成した校舎

4 竣工式を待つ子どもたち



1

1 ミャティンギ寺院学校に新設された校舎で学ぶ子どもたち

所長と日本人職員1人がミャンマーに赴任し、3月、バゴー地域ピー県に、また9月にヤンゴンに事務所を開きました。3カ年計画をもとに事業を始めています。事務所の体制を整えるとともに、「寺院学校改善事業」と「ノンフォーマル教育事業」、「児童図書出版改善事業」の取り組みをスタートさせることができました。7月には外

## 2014年の報告

## ①寺院学校改善事業

ピー県に寺院学校2校と孤児院女子宿舍1棟を建設しました。児童189人と孤児（女子）158人が安全で快適な建物で生活し学べるようになりました。14校の寺院学校の教員98人を対象に、教員研修会を実施しました。

## ②ノンフォーマル教育事業

「学校に通っていない子どものためのライフスキル教室」をピー県の3村で実施し、10歳から17歳、115人の子どもが受講しました。「学校を途中退学してしまった子どものための夜間小学校」をタワディ県の3つの村で開設して、10歳から14歳の子ども74人が入学しました。「地域学習センター」をピー県の3村で開設し、講師研修後に、読書推進活動、収入向上教室、観光を通したガイド雇用創出などの活動を行いました。

## ③公共図書館改善事業

ピー県の公共図書館6館に子ども用家具と児童図書を設置し、図書館員と小学校教員計20人を対象に専門家に



2

2 ミャティンギ寺院学校の旧校舎の様子 3 夜間小学校 4 改善されたバウカウ公共図書館の児童スペース

務省NGO連携無償資金協力による「図書館改善事業」が採択され、ピー県の6つの公共図書館に向けた児童サービスの導入と改善を開始しました。事務所開設1年目ですが、今後、事業のモニタリングと関係各位との連携を強化し、また、事務所現地職員の能力強化を重点的に取り組んでいきます。

より図書館運営研修を実施しました。また、図書館が遠い地域の子どもたち向けに移動図書館活動を実施するため、三輪オートバイ図書館車を開発しました。これで、ピー県の70,392人の児童が、図書館の児童サービスを受けられるようになりました。

## ④児童図書出版改善事業

ミャンマー作家協会との共催で絵本コンクールを開催しました。11タイトルの応募があり、選考の結果ミャンマー人作家3人が受賞しました。受賞作の絵本3タイトルを各6,400冊ずつ出版しました。



3



4

## ミャンマー



●バゴー

●ヤンゴン

| 公用語    | ビルマ語                        |
|--------|-----------------------------|
| 首都     | ネーピドー                       |
| 面積     | 678,500km <sup>2</sup>      |
| 人口     | 5,141万人<br>(2014年、ミャンマー人口省) |
| GDP    | 一人当たり869USD<br>(2013年、IMF)  |
| 通貨     | チャット(K)                     |
| 日本との時差 | ー2時間30分                     |

2011年の民政移行以来、2014年にはアセアン議長国を務めるなど、ミャンマーは毎年7%以上の高い経済成長率を維持しています。これまで民族毎に進められてきた少数民族武装勢力との和平交渉にも、包括的な停戦・和平合意に向けて進展がみられました。このまま民主化がさらに進むのか、今年10月下旬から11月上旬頃に予定されている総選挙の結果に注目が集まります。



# 緊急救援



再建されたデイクアセンターの前で(フィリピン・サマル島)

東日本大震災支援活動は2015年で5年目を迎えます。一部地域では仮設住宅の多くの住民が災害公営住宅へ引っ越しなど、復興や生活再建に向けた活発な動きも見られます。一方、福島原発事故の影響をはじめ、目に見えない心の復興についてはまだまだ大きな課題が残され

ています。そのような被災地・被災者の方々のおかれた状況にあわせ、活動の一部については収束を始めますが、今年度も岩手・宮城・福島3県における復興支援活動を継続していく予定です。

## 海外の緊急救援活動

### 2014年フィリピン台風ハイエン被災者支援事業、中国雲南省地震被災者支援事業

2013年11月8日に発生したフィリピン台風において、2014年も引き続きサマル島・東サマル州キナボンタン町にて支援活動を実施しました。16村2,152世帯へ家屋の修理や再建のために必要な材料(トタン板、合板)や工具(金槌、釘など)を配布。さらに、3歳から5歳の子どもたちが通う教育施設であるデイクアセンター5棟の再建・修復、子どもたちと親を対象にしたトラウマケアプログラムを行いました。頑丈なつくりとして生まれ変わったデイクアセンターはその後の台風でも地域の避難所として活用され、プログラムに参加したお母さんからも「台風など

が起こった時に家族と一緒にどう対処すれば良いか理解できた」との声が聞かれました。

2014年8月3日には中国雲南省昭通市魯甸県でマグニチュード6.5の地震が山間部の貧困地域を直撃しました。シャンティではアクセスが悪く支援から取り残された山あいの龍頭山鎮・龍井村8カ所にて調理器具とダウンジャケットを配布。さらに厳しい冬を仮設テントで過ごす必要のない被災者の防寒対策として、火徳紅鎮の6カ所の仮設テント住民に対し布団・敷きマット・冬用インナーシャツ・ダウンジャケット等を配布しました。



震災一か月後の火徳紅鎮の様子(中国雲南省地震)



配布されたダウンジャケットなどを持ち帰る被災者(中国・火徳紅鎮)

## 防災に関する取り組み

2015年は阪神淡路大震災から20年、3月には「第3回国連防災世界会議」が仙台で開催されるなど、災害が頻発し原発事故を含む東日本大震災を経験した日本だからこそ、その教訓を世界に発信する役割が求められて

います。シャンティでも、上記世界会議の関連イベントにおいて東日本での活動事例を発表し、そこでの課題や教訓を発信していきます。

## 東日本大震災の3事務所活動報告

### つながる人の和 復興プロジェクト(気仙沼)

#### 2014年度活動報告

まちづくり支援として、階上(はしかみ)地区まちづくり協議会のアドバイザーとして、ワークショップ実施を支援し「階上地区まちづくり計画」を作成。子ども支援では、海と向き合うことを目的とした体験プログラム「あつまれ、浜わらす」として、いかだ体験、塩づくり体験、親子でのシーキャンドル作りなど計7回実施し、延べ118人の子どもたちが参加しました。生業支援では、震災後に種付けを始めた養殖漁師「芽組」(めぐみ)のホタテとホヤの収穫が始まったことにより、今後の収入の安定化・後継者育成を目指した取り組みに関して具体的な話し合いを進めることができました。

#### 2015年度活動計画・方針

- まちづくりのしくみの位置づけとして、地元職員が立ち上げる新規団体の自立化支援を実施。
- 子どもたちの自然体験、体験学習、まち歩きを通じたまちづくり参画を企画。
- 漁村の活性化のために、漁業の協業化と漁師グループ「芽組」への支援を実施。



自分たちで手作りした筏(いかだ)でいざ海へ【宮城県気仙沼市】

### 走れ東北! 移動図書館プロジェクト(岩手)

#### 2014年度活動報告

移動図書館活動、図書室の運営、文庫活動を行い、10,000人以上に利用いただき約23,000冊の図書を貸し出しました。山田町では教育委員会と業務提携し合同で移動図書館を実施しています。大船渡市では、市立図書館やおはなしころりん(読書ボランティアグループ)と災害公営住宅や三陸公民館での図書活動について話し合いました。陸前高田市では、地元住民を中心に「陸前高田コミュニティ図書友の会」が発足し、イベント開催など図書室運営に主体的に関わっています。

#### 2015年度活動計画・方針

- 移動図書館活動(山田町では山田町教育委員会より業務委託)、コミュニティ図書室の運営、文庫活動を実施。
- 大船渡市市立図書館、地元お話し会とこれから必要となる図書サービスについての協議の実施。
- 「陸前高田コミュニティ図書室」の友の会とともに、コミュニティ図書室のあるべき姿を考え具体化。



図書室友の会での話し合いの様子【岩手県陸前高田市】

### 走れ東北! 移動図書館プロジェクト(山元)

#### 2014年度活動報告

山元町においては、町内の仮設団地8カ所すべてを訪問先とし、2,083人に利用いただき、4,000冊以上の図書を貸し出しました。南相馬市では、運行先を原町区まで広げ、2013年の8カ所から12カ所に増やしました。約1,700人に利用いただき、約3,000冊の図書を貸し出しました。

また、山元町での活動にはブックオフグループ、南相馬市での活動には曹洞宗福島県青年会相双支部やプルデンシャルジブラルタファイナンシャル生命保険株式会社のメンバーがボランティアで運行に関わっています。

#### 2015年度活動計画・方針

- 移動図書館活動を実施。
- 弱い立場にある子どもたちやその親の支えとなる取り組みの実施・継続への協力。



和みの場としての移動図書館【宮城県山元町】

### 20km圏内、避難指示解除後の集落再生への取り組み(福島)

#### 2015年度活動計画・方針

シャンティが移動図書館活動を行っている南相馬市でも、いよいよ2016年には小高区を中心とした原発から20km圏内の住民の避難指示解除が予定されています。しかしながら、事故から5年が経過する長い歳月と、震災に加え原発事故に起因する様々な課題を抱えたままの帰還開始となります。日々の生活のみならず放射能や新たな原発事故への不安を抱えつつも、ふるさとへの想いから帰還を選択された方々が少しでも快適に暮らしていけるよう、シャンティは原発へのリスクを含め住民たちと共に考え、その暮らしに寄り添っていきます。





2014年度定時社員総会

2014年も温かいご支援を賜り、活動を続けていくことができました。感謝申し上げます。  
 シャンティの名前や活動を広く知っていただくよう努め、1,122人、263企業・団体の方々が、新しい支援の輪に加わっていただけました。  
 さらに一層、活動を推し進め、皆さま方とより強いつながりを図ってまいりたいと思います。

## アジアの図書館サポーター

### スタートから10年を 迎えることができました

2005年からスタートしたアジアの図書館サポーターは10年目を迎え、はじめて登録者数が1,000人をこえました。2014年は315人の方が新しくご参加くださり、現在1,238人(2014年末)の皆さまがアジアの図書館運営を支えています。  
 昨年は各地のイベントに合わせて、スタッフが会員やサポーターの皆さまと直接お会いして、お話しできる機会を多く持つことができました。



愛知県での会員・サポーター茶話会にて

## 絵本を届ける運動

### ミャンマー向けの絵本も 開始しました

全国の皆さまにご協力いただき、総計15,179冊の絵本を活動地に発送することができました。ミャンマー事務所開設に伴い、新たにミャンマー向けの絵本も始め、634冊を子どもたちに届けます。2014年度の参加件数は、個人・企業・学校など、のべ1,215件。1999年の事業開始以来、活動地に届けた絵本の総数は24万冊を超えました。  
 2015年度は16,563冊を目標にご協力を呼びかけていきます。



ラオス・移動図書館の子どもたち 「おおきなかぶ」(福音館書店)

## 広報

### 本の力を、生きる力に。

5カ年中期計画の初年度にあたる昨年、当団体の活動について多くの人に知っていただくために「本の力を、生きる力に。」というキャッチコピーを作りました。HPに特設サイトには応援して下さる企業や著名人のメッセージも掲載しています。  
 報告会・イベントを10回開催し、343人にご参加いただきました。顔をあわせて活動を報告する機会となりました。



一時帰国中の日本人職員による報告会

## もので寄付するプロジェクト

### お片づけをすればするほど社会貢献に

本、CD、DVDが寄付になる「本で寄付するプロジェクト」は、小説やマンガ本などが強いブックオフオンラインの他に、ビジネス書、医学書などの専門書を回収しているパリュブックスが受け入れ先に加わりました。  
 おたからや目黒山手通り店のご協力で、アクセサリ、ブランドバック、カメラ、携帯電話、記念コインをなども集めるプログラムもスタートしました。



記念コインやアクセサリなども回収している

## クラフト・エイド

### デザイナーと新しいデザインの商品を 開発しました

プロボノデザイナーの藤田哲平氏を迎え、これまでになかった新しいクラフト商品を開発しました。タイ・カンボジアで現地生産者の文化、技術、状況を直接見ることによって、何をすべきか考えながら制作したものです。  
 永年培ってきたものを大事にする一方で、新しい商品を作り、新しい顧客(店舗)を開拓するという流れを作り始めています。



カンボジアにて新しい織のパターン検討

## 海外事業支援

### 海をこえ、本を通じて生まれる出会い

11年ぶりに新規国、ミャンマーに進出し活動地が広がったことは大きな挑戦でした。カンボジアでは幼児教育という新規事業を形成しました。直接関わる人びとの人権を守るという視点で、活動を行っていくように研修を行いました。  
 2014年は小学校を14棟、図書館を9棟と1室建設しました。絵本を合計45,200冊、紙芝居は合計1,050部印刷して、読書推進活動に活用しました。



ミャンマーの孤児院で夕食の祈り。子どもと中原ミャンマー事務所長



貸借対照表

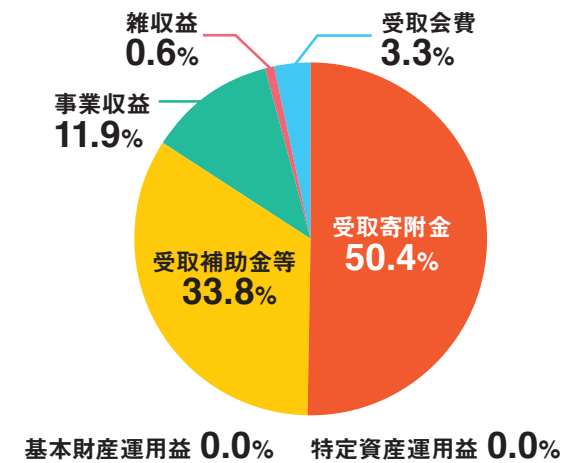
2014年12月31日現在

| 資産の部              |             | (単位:円) |
|-------------------|-------------|--------|
| (1) 流動資産(現預金等)    | 101,099,629 |        |
| (2) 固定資産          |             |        |
| ①基本財産             | 50,000,000  |        |
| ②特定資産(特定預金)       | 551,858,319 |        |
| ③その他固定資産(固定資産物品等) | 17,849,072  |        |
| 固定資産合計            | 619,707,391 |        |
| 資産合計              | 720,807,020 |        |

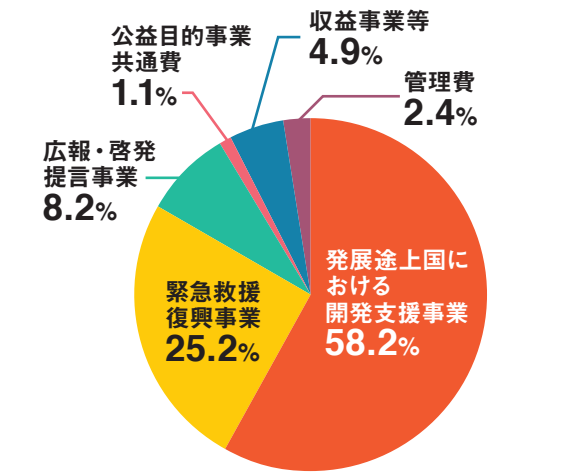
| 負債の部            |            |
|-----------------|------------|
| (1) 流動負債(預り金等)  | 16,372,123 |
| (2) 固定負債(退給引当金) | 19,140,618 |
| 負債合計            | 35,512,741 |

| 正味財産の部     |             |
|------------|-------------|
| (1) 指定正味財産 | 562,679,358 |
| (2) 一般正味財産 | 122,614,921 |
| 正味財産合計     | 685,294,279 |
| 負債、正味財産合計  | 720,807,020 |

収益



費用



正味財産増減計算書

2014年1月1日～2014年12月31日

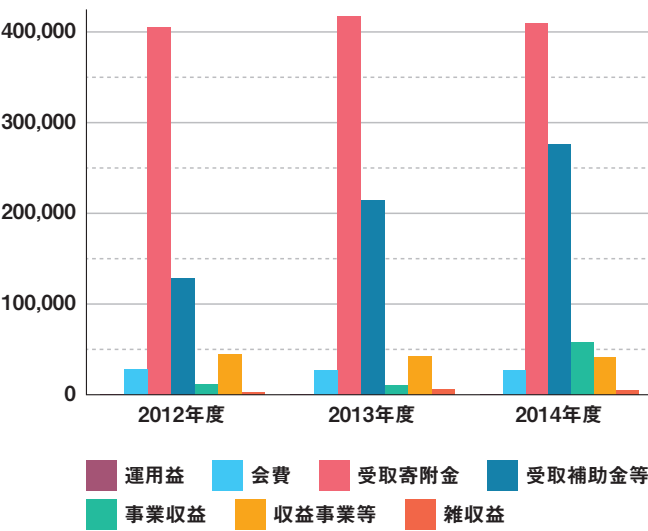
| 一般正味財産の部                  |              | (単位:円) |
|---------------------------|--------------|--------|
| 経常増減の部                    |              |        |
| (1) 経常収益                  |              |        |
| 基本財産運用益                   | 50,000       |        |
| 特定資産運用益                   | 83,870       |        |
| 受取会費                      | 27,255,000   |        |
| 受取寄附金                     | 411,927,824  |        |
| 受取補助金等                    | 275,825,183  |        |
| 事業収益                      | 97,375,013   |        |
| 雑収益                       | 4,493,631    |        |
| 経常収益合計                    | 817,010,521  |        |
| (2) 経常費用                  |              |        |
| ①事業費                      |              |        |
| 公益目的事業1(途上国における開発協力事業)    |              |        |
| タイ事業費                     | 15,059,816   |        |
| カンボジア事業費                  | 152,424,903  |        |
| ラオス事業費                    | 31,710,753   |        |
| ミャンマー(ビルマ)難民事業費           | 59,845,725   |        |
| アフガニスタン事業費                | 150,430,575  |        |
| ミャンマー事業費                  | 43,995,139   |        |
| 海外事業支援費                   | 32,238,190   |        |
| アジアの図書館サポーター事業費           | 7,123,725    |        |
| 公益目的事業1合計                 | 492,828,826  |        |
| 公益目的事業2(国内・国外における緊急救援事業)  |              |        |
| 東日本大震災支援事業費               | 123,337,874  |        |
| 緊急支援費(海外)                 | 86,484,311   |        |
| 緊急救援事業支援共通費               | 3,546,147    |        |
| 公益目的事業2合計                 | 213,368,332  |        |
| 公益目的事業3(開発協力事業に関する普及啓発事業) |              |        |
| 絵本を届ける運動事業費               | 31,710,323   |        |
| 広報事業費                     | 37,539,640   |        |
| 公益目的事業3合計                 | 69,249,963   |        |
| 公益目的事業共通事業費               | 9,435,662    |        |
| 公益目的事業合計                  | 784,882,783  |        |
| 収益事業等                     |              |        |
| クラフトエイド事業費                | 34,768,048   |        |
| 業務委託費(コンサル)               | 66,588       |        |
| 本で寄付するプロジェクト事業費           | 5,728,664    |        |
| 30周年記念事業費                 | 665,075      |        |
| 収益事業等合計                   | 41,228,375   |        |
| ②管理費                      | 20,268,815   |        |
| 経常費用合計                    | 846,379,973  |        |
| 評価損益等調整前当期経常増減額           | ▲ 29,369,452 |        |
| 評価損益等計                    | 0            |        |
| 当期経常増減額                   | ▲ 29,369,452 |        |

| 経常外増減の部        |              |
|----------------|--------------|
| (1) 経常外収益      | 10,179,498   |
| (2) 経常外費用      | 4,226,472    |
| 当期経常外増減額       | 5,953,026    |
| 税引前当期一般正味財産増減額 | ▲ 23,416,426 |
| 法人税、及び事業税      | 70,000       |
| 当期一般正味財産増減額    | ▲ 23,486,426 |
| 一般正味財産期首残高     | 146,101,347  |
| 一般正味財産期末残高     | 122,614,921  |

| 指定正味財産の部    |               |
|-------------|---------------|
| 基本財産運用益     | 133,870       |
| 受取補助金       | 262,348,198   |
| 受取寄附金       | 271,787,801   |
| 一般正味財産への振替額 | ▲ 566,368,586 |
| 当期指定正味財産増減額 | ▲ 32,098,717  |
| 指定正味財産期首残高  | 594,778,075   |
| 指定正味財産期末残高  | 562,679,358   |
| 正味財産合計      | 685,294,279   |

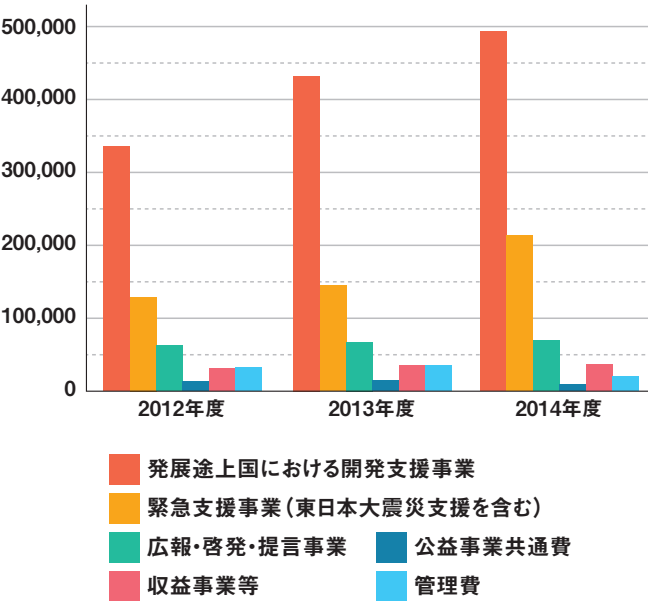
収益推移表

| (単位:千円) |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|
| 収益      | 2012年度  | 2013年度  | 2014年度  |
| 運用益     | 410     | 279     | 134     |
| 会費      | 27,575  | 27,033  | 27,255  |
| 受取寄附金   | 404,651 | 417,728 | 409,322 |
| 受取補助金等  | 128,494 | 214,922 | 275,825 |
| 事業収益    | 11,181  | 10,492  | 58,312  |
| 収益事業等   | 44,392  | 42,013  | 41,001  |
| 雑収益     | 2,775   | 6,147   | 4,494   |
|         | 619,479 | 718,613 | 816,343 |



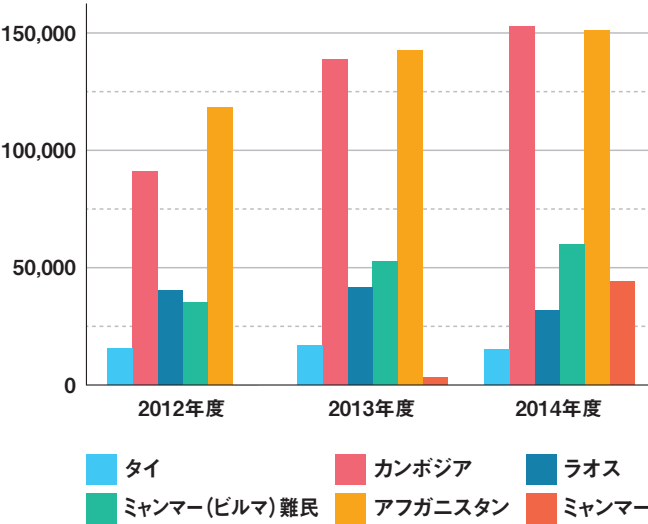
費用推移表

| (単位:千円)             |         |         |         |
|---------------------|---------|---------|---------|
| 費用                  | 2012年度  | 2013年度  | 2014年度  |
| 発展途上国における開発支援事業     | 335,639 | 432,331 | 492,829 |
| 緊急支援事業(東日本大震災支援を含む) | 129,165 | 145,264 | 213,368 |
| 広報・啓発・提言事業          | 62,794  | 67,440  | 69,250  |
| 公益事業共通費             | 13,430  | 14,627  | 9,436   |
| 収益事業等               | 30,917  | 35,206  | 36,612  |
| 管理費                 | 32,112  | 35,077  | 20,269  |



海外事業費推移表

| (単位:千円)      |         |         |         |
|--------------|---------|---------|---------|
|              | 2012年度  | 2013年度  | 2014年度  |
| タイ           | 15,462  | 16,929  | 15,060  |
| カンボジア        | 90,564  | 138,349 | 152,425 |
| ラオス          | 40,118  | 41,496  | 31,711  |
| ミャンマー(ビルマ)難民 | 35,220  | 52,321  | 59,846  |
| アフガニスタン      | 117,889 | 142,226 | 150,431 |
| ミャンマー        | 0       | 3,020   | 43,995  |





## 組織ネットワーク

**会員** 会員合計…… **1,868人** 社員会員…… **308人** 賛助会員…… **1,560人**  
 個人…… **256人** 個人…… **1,372人**  
 団体…… **52人** 団体…… **188人** (2014年12月末日時点)

### 名誉会長

松永 然道 静岡県・宗徳院東堂

### 顧問

足立 房夫 一般社団法人協力隊を育てる会会長  
 公益社団法人東京都障害者スポーツ協会副会長  
 阿部 豊淳 宮城県・光寿院住職  
 小野田 全宏 特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会常務理事  
 川原 英照 熊本県・蓮華院誕生寺貫主  
 特定非営利活動法人れんげ国際ボランティア会 会長  
 白石 孝 荒川区職員労働組合顧問  
 松野 宗純 福井県・地藏院東堂  
 横浜ルネッサンスPHP友の会相談役

### 専門アドバイザー

佐藤 凉子 子どもと読書のコーディネーター&ストーリーテラー  
 田尻 佳史 認定NPO法人日本NPOセンター常務理事  
 田中 弥生 日本NPO学会会長  
 大菅 俊幸 曹洞宗総合研究センター講師

### 役員

会長 若林 恭英 長野県・安楽寺住職  
 副会長 神津 佳予子 有限会社ケイアンドアイ代表取締役社長  
 副会長 三部 義道 山形県・松林寺住職  
 専務理事 茅野 俊幸 長野県・瑞松寺住職  
 常務理事 市川 斉 シャンティ国際ボランティア会常勤役員  
 常務理事 秦 辰也 近畿大学総合社会学部総合社会学科社会・マスメディア系専攻教授  
 常務理事 早坂 文明 宮城県・徳本寺住職  
 理事 青木 利元 作家  
 理事 有馬 嗣朗 山口県・原江寺住職  
 理事 磯辺 康子 神戸新聞編集委員  
 理事 岡本 和幸 千葉県・真光寺住職  
 理事 下澤 嶽 静岡文化芸術大学文化政策学部国際文化学科長 教授  
 理事 神 仁 公益財団法人全国青少年教化協議会主幹  
 理事 関 尚士 シャンティ国際ボランティア会事務局長  
 理事 中村 紀子 東京都生活協同組合連合会 事務局長  
 東京都消費者月間実行委員会 事務局長  
 理事 野村 修一 弁護士  
 理事 笛岡 賢司 静岡県・龍谷寺住職  
 理事 八木澤 克昌 シャンティ国際ボランティア会アジア地域ディレクター兼  
 ミャンマー(ビルマ)難民事業事務所所長  
 理事 渡邊 智恵子 株式会社アバンティ代表取締役  
 監事 野中 茂 野中公認会計士事務所 公認会計士  
 監事 増田 和生 元自治労大阪府本部特執

### 国内における主な受賞歴

正力松太郎賞(1984年) 毎日国際交流賞(1994年) 兵庫県知事感謝状(2005年)  
 ソロプチミスト日本財団賞(1985年) 東京都豊島区感謝状(1995年) 第七回井植記念「アジア太平洋文化賞」(2008年)  
 外務大臣賞(1988年) 防災担当大臣賞(2004年) 宮城県社会福祉協議会感謝状(2011年)  
 (2015年4月1日現在)

### 参加ネットワーク一覧

#### 国内

動く→動かす【フレンズ会員】/「エクセレントNPO」をめざそう市民会議【監事】/NGOと企業の連携推進ネットワーク【会員】/NGO労働組合国際共同フォーラム【団体会員】/開発教育協会(DEAR)【理事】/紙芝居文化推進協議会【会員】/カンボジア市民フォーラム【団体会員・世話人】/教育協力NGOネットワーク(JNNE)【事務局長】/国際協力NGOセンター(JANIC)【正会員】/災害ボランティア・市民活動支援に関する検証プロジェクト会議(支援P)【検討委員】/シーズ・市民活動を支える制度をつくる会【賛助委員】/ジャパンプラットフォーム(JPF)【会員】/地雷廃絶日本キャンペーン(JCBL)【団体会員】/震災が繋全国ネットワーク(震つな)【会員】/東海地震等に備えた災害ボランティアネットワーク委員会【委員】/東京災害ボランティアネットワーク(東災ボ)【副代表、運営委員】/日本アフガニスタンNGOネットワーク【団体会員】/日本NPOセンター【会員】/日本図書館協会【会員】/日本ファンドレイジング協会【団体会員】/日本UNHCR-NGOs評議会(J-FUN)【団体会員】/東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)【団体会員】/ビルマ市民フォーラム【団体会員】/仏教NGOネットワーク(BNN)【副代表、運営委員】/防災世界会議日本CSOネットワーク【参加団体】/東京都災害ボランティアセンター(仮称)検討委員会【委員】/国際災害ボランティア支援ネットワーク【常任委員】

#### 海外

●カンボジア Cooperation Committee for Cambodia(CCC)【会員】/NGO Education Partnership(NEP)【会員】/Humanitarian Response Forum(HRF)【会員】/Library Association【会員】/カンボジア市民フォーラム【現地世話人】  
 ●ラオス International NGO Network【会員】/Japanese NGO Meeting(JANM)【参加】  
 ●ミャンマー(ビルマ)難民キャンプ Committee for Co-ordination of Services to Displaced Persons in Thailand(CCSDP) (難民支援事業調整委員会)【会員】  
 ●アフガニスタン Agency Coordinating Body For Afghan Relief(ACBAR)【会員】  
 ●ミャンマー Japan NGO's Network-Myanmar(JNN-Myanmar)【参加】  
 ●全体 Asia South Pacific Association for Basic and Adult Education(ASPBAE)【理事】/The Asia Disaster Reduction & Response Network(ADRRN)【Associate Member】

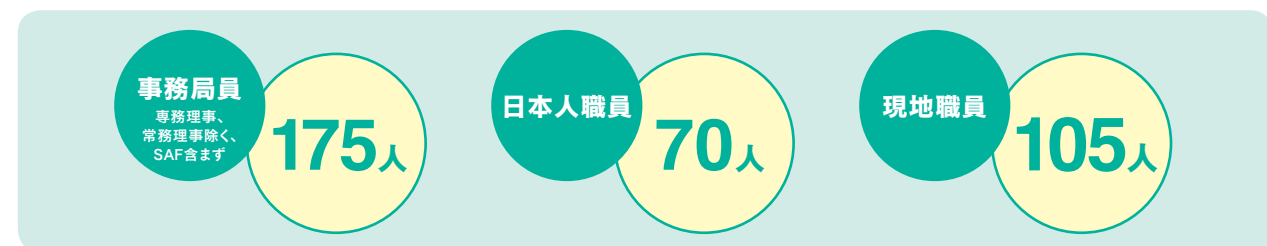
(2015年4月1日現在)

「年次報告書」制作にご協力いただき  
 ありがとうございます。

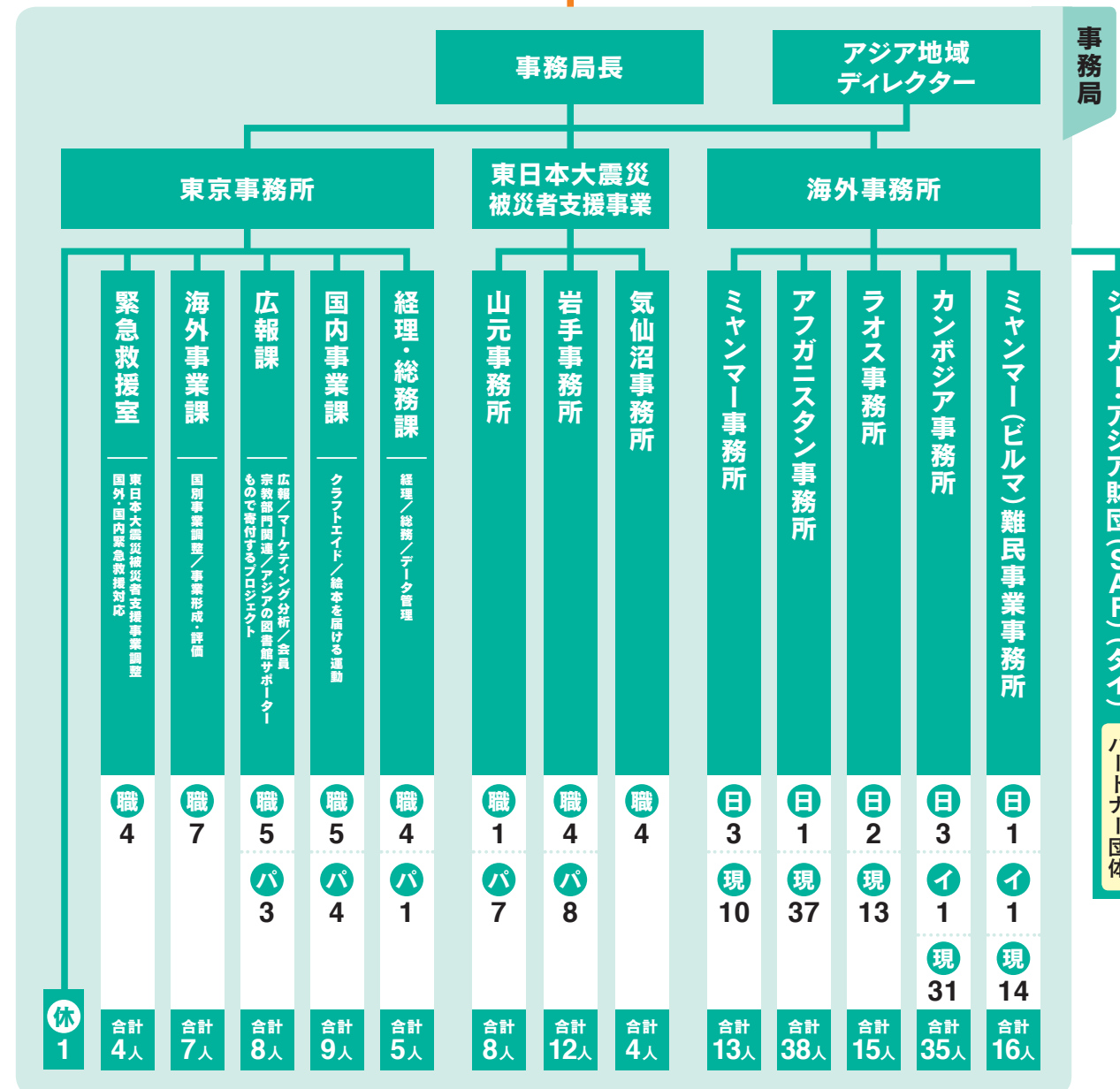
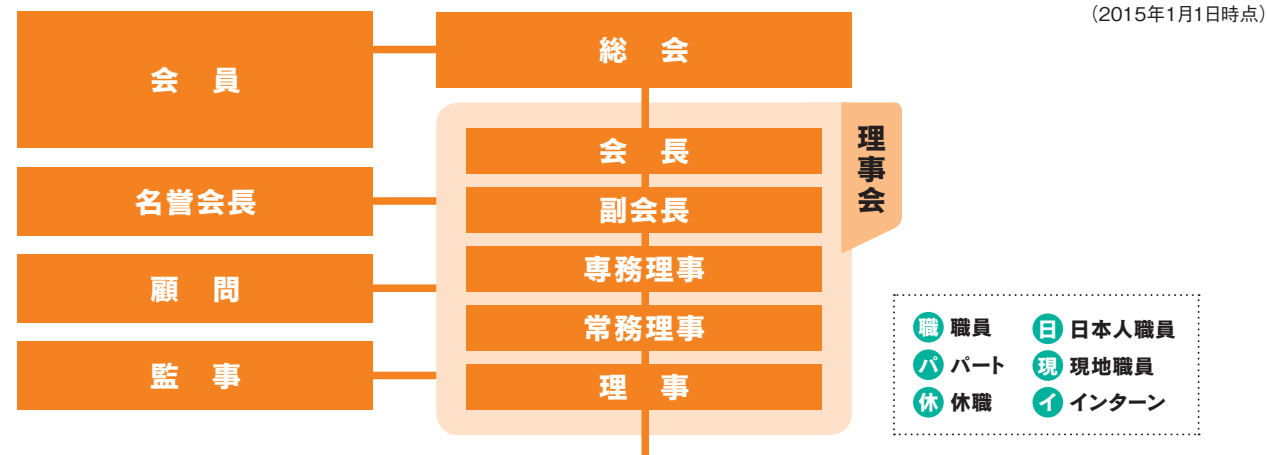
フリーライター 藤原 千尋さん

シャンティの活動を一人でも多くの人に伝えたい!  
 そんな願いと祈りを込めて、気合いを入れて書きました。

## 組織図



(2015年1月1日時点)





# シャンティが目指す姿

## ミッション MISSION

### シャンティの使命

人間の尊厳と多様性を尊び、  
「共に生き、共に学ぶ」ことのできる  
平和(シャンティ)な社会を実現します。

## ヴィジョン VISION

### シャンティが目指す姿

人びとの考える力、創造する力を支え、  
共に社会や生活の問題を解決していく  
NGOとなります。

## ヴァリュー VALUE

### シャンティの基本姿勢

- 1 苦難の中にいる人びとと、  
痛み、悲しみ、喜びを分かちあい、  
共に歩みます。
- 2 地域の伝統的な文化を重視し、  
民族、宗教、言語の違いを尊重します。
- 3 人びとが自ら気づき、行動し、  
自立へと向かう開発を重視します。
- 4 互いに支えあい、高めあうための  
触媒としての役割を果たします。

## あゆみ

- 1980年 ● シャンティの前身、曹洞宗東南アジア救済会議(JSRC)設立。  
カンボジア難民支援として図書館活動を開始。  
タイ事務所開設。
- 1981年 ● JSRCのボランティアが曹洞宗ボランティア会を結成。
- 1984年 ● 初の開発事業がタイ・スリン県バーンサワイ村で始まる。
- 1985年 ● タイのラオス難民キャンプで印刷活動開始。  
「クラフト・エイド」開始。  
タイのチェンカーンとバンコク市スアンプルー・スラムで  
図書館活動開始。
- 1989年 ● タイ・バンコクのクロントイ・スラムに  
職業訓練センター開設。
- 1991年 ● カンボジア事務所開設。  
タイにシャンティの現地法人シーカー・アジア財団を設立。
- 1992年 ● ラオス事務所開設。  
「曹洞宗国際ボランティア会」と改称。
- 1995年 ● 阪神・淡路大震災被災者支援活動実施。
- 1999年 ● 「社団法人シャンティ国際ボランティア会」となる。  
「絵本を届ける運動」開始。
- 2000年 ● ミャンマー(ビルマ)難民事業事務所開設。  
有馬実成元専務理事逝去。
- 2001年 ● 米国同時多発テロ後アフガニスタン難民支援活動実施。
- 2003年 ● アフガニスタン事務所開設。  
有馬実成著『地球寂靜』出版。
- 2005年 ● 愛・地球博「地球市民村」へ参加。  
「アジアの図書館サポーター」制度開始。
- 2011年 ● 宮城県気仙沼市、岩手県遠野市に事務所を構え  
東日本大震災被災者支援活動実施。  
30周年記念誌『図書館は、国境をこえる』出版。
- 2012年 ● 宮城県山元町に事務所を構え  
宮城県・福島県での移動図書館開始。
- 2014年 ● ミャンマー事務所開設。

## 2014年度年次報告書

発行日 2015年6月1日

発行人 若林恭英

発行所 公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会  
〒160-0015 東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3階

TEL 03-5360-1233 FAX 03-5360-1220 WEB <http://sva.or.jp> Email [info@sva.or.jp](mailto:info@sva.or.jp)

郵便振替口座 00150-9-61724

印刷 社会福祉法人 東京コロニー コロニー印刷

シャンティへのご寄付は税控除の対象になります。

詳しくは当会またはお近くの税務署か税理士にご相談ください。